

令和 4 年 10 月 26 日  
武蔵野市立北町高齢者センター  
あり方懇談会（第 2 回）

## 第 1 回懇談会（9 月 28 日開催）で出た主な意見

### ■ 倫子先生の思い

- ・ 倫子先生の思いを繋げつつ、北町高齢者センター独自のやり方で進めることが出来ればよいのではないか。北町高齢者センターの特色は「ボランティア」や「多世代交流」。
- ・ 倫子先生は「たのしむ」ということを常に言っていた。

### ■ 現状に満足している

- ・ 現状の北町高齢者センターに満足している。大きく変える必要はないのではないか。

### ■ ボランティア

- ・ ボランティアとしての活動を続けたい。
- ・ 北町高齢者センターは、ボランティアの支えによって続いてきた施設。
- ・ 倫子先生の思いを繋げつつ、北町高齢者センター独自のやり方で進めることが出来ればよいのではないか。北町高齢者センターの特色は「ボランティア」や「多世代交流」。

### ■ ハード面の課題

- ・ 利用者の中にも、足元がおぼつかない方や車いすを使用する方がでてきて、施設を利用しづらくなってきている。
- ・ みずきっこについて、定員制限のためお断りしなくてはならない状況があるのは、心苦しいところがある。
- ・ 急な階段等ハード面で一定の課題があるかを感じる。

### ■ コミュニティサロンの重要性

- ・ 武蔵野市の 1 世帯あたりの平均人数は 1.9 人であり、今後孤立する世帯が増えていく可能性がある。コミュニティのサロンの機能を維持することについての重要性を感じる。
- ・ 地域との関わりを持てるようなコミュニティスペースがあるといいのではないか。

### ■ 新たな機能

- ・ 新型コロナウイルスや超高齢化は初めて経験すること。相談機能がさらに重要になるのではないか。
- ・ 若年性の認知症の相談窓口や活動できる場所として活用できたら良いのではないか。
- ・ 高齢者が増えていく一方で、人口が減っていく。子どもが増えていく社会をつくっていくためにも、子育てに関して相談できる機能も大事なのではないか。（高齢者に限らない相談機能。ただし、よろず相談ではなく目的を明確にしたもの。）

裏面あり

■その他必要なこと

- ・公施設として、民間では参入が難しいところに今後の役割を見出していく必要がある。  
一方で、持続可能性についても考えていく必要がある。
- ・デイサービスの収支は赤字、コスト面についても検討が必要ではないか。